慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ソヰエト五個年計画概論
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1932
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.26, No.10 (1932. 10) ,p.1507(1)- 1552(46)
JaLC DOI	10.14991/001.19321001-0001
Abstract	
Notes	慶應義塾創立七十五年記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19321001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌　第二十六卷　第十號

ソヰエト五個年計劃概論

小泉信三

一

ソヰエト五個年計劃は、社會主義建設途上に於ける最も重要なる一階段を成すもので、計劃者は一九二八年十月から一九三三年九月末に至る五個年の間に、露西亞の最も急速なる「工業化」を遂行し、其の標語に言ふ通り、先進資本主義國に追ひ付き更に之を追ひ越さんとするものであること既に世人周知の通りである。

此に「工業化」といふのは、單に工業生産力を增進せしめるといふ丈けの意味でなく、工業も特に重工業の新設發達に重點を置き、やがて露西亞を化して機械を輸入する國から機械を自ら生産する國たらしめんとするものである。是と同時に、農業に就いては獨り其産額を增加せしむるのみならず、國營農場（ソウホオズ）、集會經營（コルホオズ）

の發達に依て農民個人主義の物的基礎を薄弱ならしめんことを期してゐる。經濟的鎖國は敢て望む所ではないが、併し可成資本主義諸國に對する經濟的獨立を保たなければならぬとされてゐる。從つて他の產業部門に對して五個年間に於ける貿易の發達が比較的輕視せられてゐるのは注意すべき點であらう。計劃された生產力增進の速度は一驚すべきものである。其に關する數字は後に再說するが、試みに其一二を言へば、工業生產額は計劃實施前百八十三億留のものを五年內に四百三十二億留（價格不變として）に增加させる。此增加率は一三六％である。農產物は百六十七億を二百五十八億に、即ち五五％の增加が計劃され、交通に於ては鐵道線路の七萬六千粁に新たに而も重に邊境地方に一萬五千粁を加へられるといふ。

勿論斯る巨額の生產增加を圖るには、巨額の資本を放下しなければならぬ。五年間の豫定放資額は、工業に百六十四億留、電化に三十一億、交通に百億、農業に二百三十二億、合計六百四十六億である。これに由て計劃實施前の元本資金評定額七百二億留が五年後に千二百七十八億留となる。此增加率八二％である。是丈けの資本增加を得るには國民所得の四〇％を貯蓄して放資しなければならぬといふ。此放資が露西亞人に取つて何程の負擔と努力とを意味すべきかは、例へば世界恐慌前に於ける獨逸國民の貯蓄が國民所得の約一四％に過ぎなかつたことを憶起すれば思半ばに過ぎるであらう。

而かも勞農當局者の報告する處に由れば、計劃實施の成績は著しく計劃其者を凌駕した。そこで實施後一年にして更に「五個年計劃を四個年に」といふ生產促進の運動が起された。元來ソヰエト聯邦の經濟年度は十月二日に始まつて翌年の九月三十日に終ると定められてゐたが、一九二九年に其を改めて、十、十一、十二の三個月を臨時に一九二九―三〇年度に追加し、一九三一年からは一月に始まつて十二月に終ることにした。即ち第一次五個年計劃は今年一杯を以て、即ち四年三個月を以て完了するのである。

前記の如く、五個年計劃は社會主義建設途上の一重要階段たるに過ぎないものであるから、勞農當事者は無論第一次計劃完了を以て能事畢るとなすものではない。當初の目的を貫徹する爲めに第一次計劃の次には無論第二次五個年計劃が實施せらるべきである、その大體も既に報導されてゐるが、其事は姑らく措き、今第二次計劃の殆ど完了に垂んたる機會に於て、革命以來露西亞に於ける社會主義計劃經濟の試みが、今日迄に如何なる成績を擧げて來たか、及び其將來の發展を觀察するに當つて須らく其の如何なる點に着目すべきかに就いて概說と概論とを試みたいと思ふ。

二

ソヰエト計劃經濟の體系は、革命以來幾度かの變遷を經て、漸く近年に至つて其體を成した。一九一七年十一月ボルシエヰキ政權を掌握した直後には、土地所有權の廢止が公布せられ、銀行と交通とが國の有に移され、外國貿易が國家の獨占と宣言せられたに止まり、工業に就いては、一般的に之を國有國營に移すといふ方針は立てられてゐなかつた。工場は寧ろ混沌たる狀態の中に、必要已むを得ず、無秩序に國家の統制に移されて行つたのである。其は大體斯ういふ次第であつた。

革命に依て政治上の舊權力が倒壞すると、各工場の勞働者も亦た自ら工場の支配者になりたがつた。所謂「勞働者管理」なることが行はれて、勞働者は資本家、支配人又は技師の行動に監督制肘を加へようとした。其處で資本家等の或者は工場を放棄し、或者は勞働者に驅逐されて去るといふ事になつた。併し無智無經驗な勞働者には固より工場を經營して行く能力はない。已むを得ず國家は斯る工場をば一つ一つ國有に移して行つた。又或る企業家は勞働者の管理に服從しない爲め、刑罰的に工場を國家に沒收されたといふ如き場合もあつた。

要するに革命直後に行はれた工場國有は、大概從業勞働者が自ら自己の工場を支配せんとするサンヂカリズム的欲求に發したもので、國民經濟全體に亘つての計劃に基づいたものではない。此の混沌たる狀態に秩序を與へ、統一的計劃に從つて國有を遂行する爲め、一九一七年十二月に、其議長を人民委員會（內閣）に列せしめる最高國民經濟會議なるものが設けられ、翌年五月全國々民經濟會議第一回大會は左の如く決議した。「生產の組織に關する限りに於ては國有化を完成せしめ、個々の企業の國有に代ふるに全產業部門—第一には金屬、機械製造、化學、石油及び纖維工業—の國有を以てすることを必要とする。國有の遂行は偶發的性質を帶びてはならぬ。それは一に最高國民經濟會議からか、或は其承認を得て人民委員から發しなければならぬ。」次いで六月二十八日に一般的國有令が發布されて、殆ど一切の大工場が國有に移されることになつた。國有に移された企業の數は、一九一九年一月一日に八百三十、翌年の同日には三千三百二十四に上り、更に此年の十一月には十人以上の勞働者を使用するか、或は五人以上の勞働者を使用すると共に機械を使用する一切の私企業が國有と宣言せられ、國有企業の數は一九二一年一月一日には五千八百三十四に上つたと記載されてゐる（拙著、社會思想史大要三一五頁參照）。

此の國有の進行と同時に、勞働者大衆並に經濟生活一般に對する國家權力の强制の力が增大して行つた。政府は漸く勞働者に向つて規律、秩序、勞働を强く要求し始めた。即ち政府は、一方では特別の待遇を以て、一旦排斥された技師支配人等の專門家を重用し、出來高賃銀制其他の方法を以て勞働者の怠惰を鞭撻すると共に、他方「勞働行程指導者の統一的意志に對する絕對的服從」（レニン）を說いた。此の勞働者に對する强制の頂上に對したものが「勞働の軍隊化」で、これに依て政府は勞働者の移動、勞働の自由を剝奪して、その必要とする處に勞働することを命じ、復員すべき軍隊を復員せずして直ちに之を勞働軍隊たらしめんとした。若しも「吾々が眞面目に一個の計劃的經濟を云々せんと欲するならば、若しも勞働力が與へられたる發展段階に於て經濟計劃に相應して分配されねばならぬとするならば、勞働者階級は決して遊牧民の生活を送つてはならぬ。彼等は兵士と同樣に移動せられ、配分せられ、派遣せられねばならぬ」とトロッキイは當時（一九二〇年四月）言つたものである。（F. Pollock, Die planwirtschaftlichen Versuche in der Sowjetunion. 1917-1927. 1929. S. 58）

同時に政府は市場交換の廢止を勵行せんとして切符制度を擴張し、賃銀は全部實物を以て支拂ふべきものとし、電話水道下水瓦斯電氣の使用を無料にし、交通機關、燃料の給附、家賃をば、國營企業の勞働者使用人並に廢疾者、赤色軍の家族に對して無料となし、更に國營企業の勞働者使用人に對しては消費財は悉く給養委員部（給養省）が而かも無料で配給することを試みた。是が爲めに此委員部は一時三千八百萬人の給養を掌らなければならぬことになつ

たといふ。これは無論實行できることではない。(Pollock S. 71)

以上は都市の事であるが、農民に對しては是と同時に餘剰穀物の强制的徵收を行つて農民の抵抗に會つた。農民の身として見れば、折角丹精して耕作した農産物に餘裕があれば悉く其部分を沒收されるといふのでは、努力をする甲斐がない。農民は作付反別を減じ、耕作を粗放にして、自家必要以上の餘剰穀物を生産しまいとするやうになつた。

結局此が爲めに勞農政府は行き詰まつて、遂に政策轉換が行はれ一九二一年の春新經濟政策(Novaja Ekonomicheskaja Politika 略して N. E. P.)が採用された。後に至つて革命からネップ採用に至る迄の期間を戰時共産主義の時代と稱してゐる。宛も此數年は勞農政府が國内の反革命軍、外國の干涉及び封鎖と、存亡を賭して戰はなければならぬ時期であつた。戰時共産主義といふのは、上記の諸方策を必しも社會主義實現の手段として採用したものでなく、たゞ内亂外寇に處して緊急已むを得ざる臨機の處置として實行したに過ぎなかつたと謂ふのである。

併し勞農政府當局者が果して上記の諸方策を當初から單に一時の應急策として採用したに過ぎなかつたか否かは疑はしい。レニン其他重なるボルシエヰキは、戰時共産主義的方策は社會主義經濟を建設すべき最も速かなる方途であると確信してゐたものと解すべき理由がある。有名な理論家のクリツマンの如きも戰時共産主義を稱して「プロレタリヤ自然經濟の最初の壯大なる試み」といつてゐる(Pollock, S. 97, 101, 125)。戰時共産主義云々には後で附けた辯解も含まれてゐるものと見受るべきであらう。

三

政策轉換が主として農民の抵抗の爲めに餘儀なくされたことは前述の通りである。ソヰエト政府は、資本主義の廢墟の上に直ちに市場なき社會主義經濟を築造することを一旦斷念し、有ゆる市場の手段を利用して先づ生産力を培養し、斯くして後に市場なき經濟を建設するといふ迂回路を取ることにした。是がネップの根本思想であつた。そこで其時迄に行はれた私人の營利活動に對する幾多の禁制壓迫が一時に解除若しくは緩和されることになり、從つて資本主義の特徵たる幾多の關係が復活することになつた。

新經濟政策の發端に施行されたのは、穀物の强制的徵收に代る現物稅の賦課であつた。併し現物稅の賦課は、之を納付した跡の農産物の自由處分を伴はなければ無意義である。實際に又其通り規定された。當局者ははじめ、地方的限界内の商品交換のみを許可し、又依然として協同組合を通じて工業品と農産物との實物交換を行はしめる考であつたが、其では所期の目的を達し得ないので、先づ貨幣使用の制限を廢し(六月)、國立銀行を改造し(十月)次いで自由交換に對する一切の制限を撤去する(十二月)といふ風にして、自然經濟の遺物は漸次に廢止されて行つた。物給賃銀も金給に改められ、一切の國家無償勤務は社會政策的のものを除くの外は皆な廢止せられ、農業現物稅その者も結局は純然たる金納稅に改められた(一二三年十二月)(Pollock, S. 143-145)

勿論重要工業、交通、銀行、外國貿易は依然國家の手中に掌握されたのであるから、私人の營利的行動と有ゆる産業方面に復活した譯でなく、專ら商業、それも小賣商業に限られた。併し此方面に於ける營利活動の發展は侮り難

きもので、一九二三年の終りには、卸賣商業の四分三こそは國家（更に八％は協同組合）に依て行はれたが、小賣商業に至つては、一時殆ど全く私人に依て營まれた。ネップに依て富を得たといふ意味でネップマンと呼ばれたものは即ち此等の商人である。

ネップマンと相並んで農村には所謂クラクが擡頭したことも人の知る通りである。クラアクは、直譯すれば「拳」といふことで、本と農村の高利貸を指す言葉であつたといふが、漸次に廣く有福なる農民一般に對する稱呼となつた。元來十一月革命に依て土地の私有が廢止せられた時は、各農民家族に、他人を雇傭せず己れの力を以て耕作し得る限りの土地を均等に分つといふ原則で土地の用益を許す筈であつたが、此時も既に「均等」の配分は事實上は行はれなかつた。其は既に農民に貧富の別があり、貧困なる農民は、以て耕作すべき農具や家畜を持たなかつたからである。然るに、更に上述の新經濟政策の採用に依て農民の營利的活動に對する制限が寛かになると、當然彼等の間に於ける勤惰智愚或は狡猾なると否との差異が一層著しく結果に現れて來る。即ち耕作餘力のあるに任せて自家保有の土地以外更に他人の土地を借り足して耕作し、或は其耕作に賃傭勞働者を使用したり、所有の農具や家畜を賃貸したり、農産物の賣買其他の商業に依て利益を營んだりする者が生じて來た。これが即ちクラアクである。

クラアクと、普通中農と譯されてゐるセレドニヤアク、更に此と其下のベドニヤアク即ち貧農との間には劃然たる分界線を引くことは困難であるが、何れにしてもクラアクは全農民の少數者に過ぎない。たゞ併し、少數者には過ぎないが、市場に於ける穀物の供給といふ點から言ふとクラアクの地位は甚だ重要である。蓋しベドニヤアクは勿論セレドニヤアクと雖も自家の消費量以上には餘り市場に穀物を供給する餘裕を持たないからである。此のクラアクの擡頭は共産主義者に取つて當然懊惱心痛の種とならざるを得ない。

レニン共他の共産主義者は固よりネップマン及びクラアク擡頭の危險を承知してゐる。現にレニンの如きも、自由賣買を公認することに決した後、自ら斯う言つた。「交換の自由は商業の自由を意味する。……吾々は皆な此の交換から、而して此の自由商業から、必ず商品生産者の資本所有者と勞働力所有者とへの分立、即ち資本家的賃銀奴隷制の再建が生ずることを承知してゐる。資本家的賃銀奴隷制は天から落ちて來るものではなくて、農業商品生産から生じた世界に成立するものである。」（Lenin, Das Verhältnis der Arbeiterklasse zum (mitteren) Bauerntum. 1921）併し何分社會主義建設の爲めには生産力の恢復が第一の急務であるといふ立場から、此危險を冒すも已むことを得ずと決心したのである。從つて此時代のレニンは、徒らに資本主義復舊の危險を惧れて許りは居られないといふ立場から、却て往々資本主義讃美に類する言葉を吐いた。度々引用されたが彼の「現物稅論」の中に「資本主義は社會主義を以て之を測れば害惡である。中世に對し、小規模生産に對し、小生産者の分裂と結合せる官僚主義に對すれば、資本主義は幸福である。吾々がまだ小生産から直ちに社會主義へ轉化すること能はざる限り、或程度に於ける資本主義は小生産と交換との産物として避くべからざるものである。同じ程度に於て又吾々は、資本主義を（殊にそれを國家資本主義の河床に導くことに依て）小生産と社會主義との中間階梯として、生産力を增進せしむる爲めの手段行途方法として利用しなければならぬ」と說いた如きは其一例である（Russische Korrespondenz, 5, 1921, S.

269)。

唯彼れは、部分的に資本主義を復活せしめても決して充分に之を復活せしめぬことに依て將來の社會主義建設を擁護するといふ政策を取つた。資本主義の復活に對する堡障となるものは、大工業の國有、外國貿易の國家獨占、銀行、交通機關の國有國營である。之をボルシエヰキは稱して命令高地と言つた。

四

政策轉換は共產黨に取つて多大の危險を含んだに拘らず猶且つ之を敢行したのは、一に上述の如く、市場經濟の手段を利用して生產力を增進せしめんが爲めであつた。然らば、其の肝心の生產力は何うであつたかと言ふと、是れは確かに新經濟政策採用後著しく增加した。是れには勿論外戰內亂の終熄、一九二二、二三年の豐作も與かつて力あつたが、主としては市場經濟の復活に依て刺戟された私人の營利的活動に因るものであることは爭はれない。一旦著しく減少した都市人口は再び增加し始め、休業工場は再び運轉を開始し、一般の生活標準も上進した（W. H. Chamberlin, The Soviet Planned Economic Order, 1931, p. 9-10)。

今生產力恢復の速度を見ると、工業製品の產額は、一時大戰前（一九一三年）の一五乃至二〇％と言ふ處まで下落し、或種重要金屬の產額に至つては、二％迄下り、農產物は同じく戰前の五五％に落ちたといふ者がある（Chamberlin, p. 7)。今試みにグリンコの「五個年計劃」から革命後の工業、農業生產額の增減と一九一三年度の夫れに關する百分率の數字を拔萃すれば左の如くである。（G. T. Grinko, The Five Year Plan of the Soviet Union, 1930, p. 34)

	工業	農業	產業全體
一九一三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一七年	七五・七	九二・三	八五・三
一九一八年	四三・四	九一・五	七一・三
一九一九年	二三・一	七六・三	五三・九
一九二〇年	二〇・四	六八・九	四八・五
一九二〇—二一年	二四・七	六三・九	四七・四
一九二一—二二年	三〇・一	五四・四	四四・二
一九二二—二三年	三九・五	七三・六	五九・二
一九二三—二四年	四八・〇	七九・九	六六・五
一九二四—二五年	六七・〇	八四・〇	七六・八
一九二五—二六年	八九・九	一〇一・三	九六・五
一九二六—二七年	一〇三・九	一〇六・五	一〇五・四

一九一三年度の生產額實數は工業八十四億三十萬留、農業百十六億一千萬、計二百億一千萬留である。更にネップ採用の年を基本として之を其後に於ける工業生產額と比較すれば、其勢力の急速なることが一層明瞭となる。左の如くである（Chanberlin, p. 39)

一九二一—二二年	一〇〇	一九二六—二七年	五二〇・一
一九二二—二三年	一四五・八	一九二七—二八年	六三七・一
一九二三—二四年	一九〇・七	一九二八—二九年	七八八・一
一九二四—二五年	三一〇・九	一九二九—三〇年	九七八・八
一九二五—二六年	四四三・八		

前記の表に由て見ると、露西亞國民經濟の生産力は、工業農業或は産業全體に就いても、一九二六—七年には既に戰前の程度に復歸して更に之を超過してゐる。即ち新經濟政策に依る生産力の復舊は、一九二六—七年に成就したのである。然るに此に問題があるといふのは、此頃に至る迄の生産力增進は全く文字通りの恢復であつて、新しい建設ではない。ソヰエト露西亞は大體に於て帝政露西亞の遺産を相續し、工場鑛山鐵道其他既存の生産設備を利用して生産した。此時代の問題は、革命後に放棄又は荒廢の儘に委せられた生産設備を如何にして利用すべきかといふ事であつた。而して上記の數年の間に兎も角其を利用して、既存の生産設備が許す限りの生産力は實現された。次の問題は新なる建設である。生産設備の利用でなくて、生産設備其者を全く新たに造り出し、若しくは既存のものを擴張しなければならぬ。生産設備といへば結局固定資本の設備である。「固定資本の補充と擴張とが結局、殊に一九二七年以來焦眉の問題となつた」(Pollock)

五

生産設備の新設擴張は獨りソヰエト露西亞に限らず、苟も停滯靜止の狀態に陷らぬ限り、何れの國民經濟も解決しなければならぬ問題である。而して此問題解決の方法は讀者諸君御承知の如く二ある。市場價格を晴雨計として、消費財と生産財とを問はず、たゞ其生産費に比して市場價格の最も高いものを生産する方法が第一である。今一つは、市場價格の高低に論なく、或は全く市場價格を廢して、國家が自らその獨特の立場から、最も必要又は望ましいと認めるものを生産せしめる方法である。此場合に於ては既存の生産力を何れの方向に用ふるべきか、消費財の生産にか、生産財の生産にか、或は如何なる生産財の生産に用ゐるべきかは、國家が自由に決定する。反之、前の場合に於ては、一切の問題は市場價格の高低に由て決定されるが、市場價格の高低は生産物に對する有效需要(購買力を伴ふ需要)に由て左右される。消費財に對する有效需要が消費の欲望と其所得に由て定めらるゝことは言ふ迄もない。併し消費財に對する需要は、直ちに以て其消費財を造るべき生産財に對する需要となるものではない。パンを買ふ者は消費者である。併しパンを造るべき小麥を買ふ者は消費者でなくて、製粉業者、又穀粉を買ふ者はパン製造者である。製粉機械、パン燒竈を買ふ者に就いては言ふ迄もない。此場合の小麥又は製粉機又はパン燒竈は誰れが何を以て買ふか。答へて曰ふ、それは企業家が資本を以て買ふのである。資本は如何にして成立するか。廣い意味の貯蓄に依てゞある。其處で若しも國民所得の多くの割合が貯蓄されゝば、爲めに生産手段に對する需要は比較的增進し、其價格を比較的騰貴せしめ、從つて國民生産力のより多くの部分が生産財の生産に向はしめられ、反對ならば又反對の結果を生ずるし、若し又國民の純所得が擧げて消費の爲めに支出されるならば、國民經濟は靜止の狀態を續けるであらう。此場合に或は消費財に對して比較的多量の生産手段が生産せられ、或は此較的多量の消費財が

生産せらるゝことは、國民經濟全體の上から見て或は望ましいかも知れないし、或は望ましくないかも知れぬ。併し斯く或は多くの或は少なくの生産手段が生産せらるゝことは、國民經濟全體の利害から見て決せらるゝのではない。原則として所得收得者自身のその利益と認める所に由て左右されるのである。貯蓄の動機は單一ではない。其は將來の危險出來事に對する用心から行はれることもあらう。或は單純に利殖の爲めに行はれることもあらう。何れにしても、貯蓄者は該國民經濟の生産方向を決定することが目的で貯蓄するのではない。而かも期せずして結果は生産力を生産手段の生産に向はしめることになるのである。

生産手段といへば、加工を受けて生産物となる原料も、加工に用ゐらるゝ機械や道具即ち固定資本も、等しく生産手段である。併し一定の生産物を造るに原料を要することは、國民經濟の發展と左程に深い關係のない事實である。關係があるのは、一定の生産物を造るに先づ其を造るべき機械又は道具を生産し、而して之を用ゐて生産するといふ方法を取るか否かに在る。貯蓄が行はれても行はれないでも、原料が生産せられ、生産せられた原料が加工されて完成生産物となることには、大體變りはない。變りがあるのは、固定資本たる生産手段が生産せられ、而して其を用ゐて生産が行はれるか否かである。然るに固定資本たる生産手段といふのは、畢竟金屬を以て造つた機械類が其大部分を占めてゐる。即ち一國民經濟に於て貯蓄の大に行はるゝと否とは輕工業と重工業との輕重を定めるのである。

ソヰエト露西亞が帝制露西亞から繼承した生産設備は、大部分上記の市場價格機構に依て定められたものである。然るに今新なる固定資本の擴張を行ふに當つては、ソヰエト政府としては當然市場價格に依らず、國家の統一的計劃に從つて之を行はなければならぬ。其を如何にして行ふか。

六

併し國家の統一的計畫經濟を行ふに就いて第一の困難は、無論全人口の八割を占める一億何千萬人といふ農民である。勿論農民には種々の階層があり、其のイデオロギイも決して單一ではないが、併し兎に角彼等が皆な個人的商品生産者であることは動かす譯に行かない。其生産は小規模で、其の個々の資本力は論ずるに足らぬとしても、兎に角此の多數の營利生産者を其儘にしては、社會主義經濟は存續出來ぬ。社會主義建設の計劃の中には是非此の農民を如何に處置すべきかゞ定められなければならぬ。簡單に言へば、マルクス主義者としては、此等農民をば大工業の賃銀勞働者と同樣、之を單獨々立の生産者でなくて、大經營に於ける賃傭者、又は其に類似の位置に在るものたらしめねばならぬ。

工業の方面では、露西亞に從來發達したのは概ね輕工業であつて、機械類其他の生産用具は多く之を外國から輸入した。今若し歐羅巴全土に革命が起つて、ソヰエト露西亞が歐羅巴社會主義聯邦の一成員となるといふ事なら是れで差支なからうが、周圍の列强が皆な資本主義國である現在に於ては、獨り輕工業のみ營んでゐては經濟上先進工業國附庸の位置に立たなければならぬ。獨立の社會主義國民經濟を建設するには自ら重工業を持たねばならぬ。即ち前述の通り、ソヰエト露西亞の「工業化」とは、單に工業を盛んならしめることではない。農業との關係に於ける工業、輕工業との關係に於ける重工業の發達を意味するのである。

是は昨今の問題ではない。新經濟政策の採用は確に資本主義に向つての一種の退却ではあつたが、是は所謂戰術的退却であつて、決して社會主義建設といふ目的の放棄を意味するものではない。新經濟政策も戰時共產主義も、其肝心の目的は變つてゐない筈である。「國の工業化、其と關聯しての農業の技術的社會的基礎の變革、而して最後に國民經濟の益々廣き領域を一個の統一的計畫に從屬せしむること」これが新經濟政策の「根本思想」だとボロツクは言つてゐる（S. 127.）。而して更に「工業化」の意味に就いても、「工業國といへば、ボルシエヰキは經濟的重點の所在が單に大工業其者にある國家の意味に解せずして、彼等は工業化は、專ら行はるゝ大工業の中で重工業が、即ち工業原料及び生產手段の生產、即ち就中鑛山機械及び動力生產（マルクスのシエマに於ける第一部）が決定要素となれる場合に始めて遂行せられたるものと見るのである。輕工業が高度の發達を遂げ、消費財生產の遂行に必要なる機械及び原料は主として之を外國に仰がねばならぬ國は、ボルシエヰキの見解に由れば、獨立の工業國と認むべきものでなく、單に重工業品供給者の附屬物に過ぎないのである」。（S. 127, 128）

是はソヰエト政策に當然含まれたことであるが、「恢復」の時代が終つて「建設」の時代が迫るに從つて愈々痛切の問題となつた。例へば共產黨第十四回大會の如きも共決議中に左の如く聲明したのである。「經濟的建設はソヰエト聯邦を、機械及び工場設備を輸入する國から轉じて之を生產する國たらしめ、斯くしてソヰエト聯邦を、之を取り圍む資本主義世界經濟の經濟的附屬物でなく、之を一個獨立の經濟單位たらしむるといふ見地の下に遂行せられねばならぬ」（zi iert bei Pollock S. 129）

七

ソヰエト經濟發展の方向は上述の如くであるとして、此計畫の立案決定に當るものは誰れであるか。此に就いて今日最も重要な役目を勤めつゝあるものは Gosudarstvennaja Planovaja Kommissija pri STO（國家計劃委員會）略してゴスプランである。ゴスプランの前には露西亞電化委員會（ゴエルロ）が設けられたが、進んで國民經濟全體に亘る系統的計畫を立てるには至らなかつた。ゴスプランの始めて設置されたのは一九二一年二月二日の事で、爾來樣々の變遷を閲みし、又多くの困難にも遭遇した後、今日では聯邦ゴスプランは計劃經濟全體の頭腦になつてゐる。

元來計劃經濟の事は、既記の如く當初は最高國民經濟會議が之に當るべき筈であつた。然るに實際の發達上此の會議は獨り工業の統制といふ限られた職分を行ふものになつたので、更に國防と共に工業と他の經濟諸部門との連繫を掌る爲めに、人民委員會（內閣）に依て直接任命せられ、人民委員會議長を議長とする Sovet Trnda i Oborony（勞働及び國防會議）略してストオ（S. T. O.）が設けられた。今記さんとするゴスプランは更に直接此のストオに從屬する一委員會であつて、形式上から言へば、單にストオ、の一補助機關に過ぎず、何等の行政的權能を持たないものであるが、事實上に於ては此がソヰエト聯邦の全計劃經濟の中心となつてゐる。

ゴスプランの任務は何であるかといふと、政府の諸部局國營企業、國營並に集團農場から提供された見込資料を整理組織して尨大な將來の經濟的發達に對する計畫を立てる。其計劃が政府の承認を得て實行案となり、私企業を除く外一切の生產運輸配分が之を基準として行はれなければならないのである。

ソヰエト聯邦の政治制度は絶えず變革されるが、比較的新しい報導に由ると、ゴスプランは政府に任命された二十二人の幹部を以て構成せられ、人民委員會の副議長が之を主宰する。ゴスプランは左の如き十一の部局に分れてゐる。

（一）動力部。これが燃料及び電氣を擔當し、國の動力源を調査し、其利用に就いての案を作る。又燃料及び電化の案も作成する。

（二）工業部。これが工業產額に對する最後の統制數字を決定する。此部は更に金屬工業化學工業、木材工業、纖維工業等幾多の小部局に分たれる。

（三）農業部。此部は作附段別の擴張、種子飼料分配の案を作成し、又一般的に國營農場集團農場の指導に當る。

（四）建築部。一般の建造案を擔當し、新都市の設計をなし、建造の標準を確立し、建築材料の充分なる供給を保障せんことに努力する。

（五）運輸交通部。鐵道及び水運體系及び郵便電信電話の設計に當る。

（六）消費及び分配部。ソヰエト聯邦に於ける小賣商業の要部を擔當する消費組合の發達擴張を設計し、貨物分配を計畫し、又食物の供給と關係ある場合には冷藏倉庫の建築の如き建設の計畫をも作成する。

（七）勞働及び熟練專門家部。此部は技師、熟練家、習熟不習熟勞働者の必要及び供給を計算し、技師習熟工養成の機關を計畫する。又賃銀、勞働生產力の增進、社會保險、勞働保險法の事も擔當する。

（八）文化部。學校其他教育の事を擔當する。新聞、圖書館、ラヂオ、映畫演劇其他民衆の文化程度を高むべきことは凡て此部の擔當に屬する。

（九）科學部。科學的研究資源探險等をも含む關する立案を掌る。

（十）經濟及び統計部。ゴスプランの仕事に肝要なる統計的資料を蒐集する。

（十一）組織部。ゴスプランの事業其者を計畫し及び其專門家使用人の撰擇に當る。

此外にまだゴスプランには經濟研究所があつて經濟計畫の方法其者を研究する。

ゴスプランの使用人は最近まで一〇二〇人が、其中四七〇人が專門家、殘るものが書記であつたといふ（Chamberlin pp. 17-21）。

有名なゴスプランとは大略斯樣なものである。而して前述の如く此委員會は直接行政的權能は持たないが、其の決定した計畫が一度政府の承認を得ると、其が最終の動かすべからざるものとなり、各工場、各國營又は集團農場は最善を盡して其以上の生產成績を擧げなければならないとされてゐる。

以上はソヰエト聯邦の最高ゴスプランに就いて述べたのであるが、此聯邦を構成する六の各共和國にも夫々ゴスプランがあり、更に各共和國の政治經濟的區域たる自治共和國、オブラスト、クライ、オクルウグ、更に下級のレヨンにも、夫々此に相當する計劃委員會がある。而して此等計劃委員會は、一方に於ては其地區の行政部に直屬すると共に、他方に於て、其上級及び下級の計劃委員會と連絡を取る。例へば、オクルグの計劃委員會は、一方直接オク

ルグ行政部の權威下に立つと共に、他方その上級たるオブラスト計劃委員會から指揮勸告を受け、又之に對して報告をなすの義務がある。オブラスト計劃委員會の共和國計劃委員會に於ける亦た同樣である。

同時に他方に於て人民委員會の各委員部には夫々計畫部があり、ゴスプランは此と連絡を取る。例へば商業委員部交通委員部或は最高國民經濟會議（これが普通國内閣の各省に相當する）は夫々計畫部を有し、之を通じて計畫資料はゴスプランに送達せられ、又之を通じて決定せる計畫が夫々商業、運輸、工業實務當局者に廻附される仕組みになつてゐる。農業組合生産組合及消費組合にも夫々計畫部があつて、代表者をゴスプランに出して居る。國立銀行も同樣である。斯の如くにして國民經濟の各部門は、ゴスプランに代表せられ、而して又ゴスプランに連絡すると同時に其自身の組織の下に屬する計畫部を持つのである。（C. B. Hoover, The Economic Life of Soviet Russia, 1931, pp. 299-300. Pollock, S. 385-6）。

八

以上は計畫の機關であるが、然らば實際の生産遂行は如何にして行はれるか。それには最高國民經濟會議に統制せらるゝ工業生産の組織を知らなければならぬ。（追記。一九三二年一月最高國民經濟會議の組織を改めて、重工業、輕工業及び林業人民委員の三部に分つことにした。本文記述の大綱には變更の要を見ない）

國民經濟會議が當初設置せられた時よりも其職分を狹ばめ、國民經濟全體でなくて、單に工業のみ統制機關となつたことは前に述べた。最高國民經濟會議（O. V. W. R）にはソヰエト聯邦全體のと、之を構成する共和國のと、更に其以下の地方單位の經濟會議とがある。各種の工業はその重要性の全聯邦的なると、共和國的なると、更に以下の地方的なるとの如何に由て、夫々の經濟會議の統制に服する。其統制の方法は大體左の如くである。

工業生産の最下段の單位は無論企業又は經營である。企業が集まつてトラストを組織する。トラストが更にトラスト「結合」（Obedinenie）を造る。結合は元とシンヂケエトと稱されたものであるが、改稱と共に其職分も擴張せられ、從來のシンヂケエトが生産物販賣を目的として組織せられたに對し、今の結合は最高國民經濟會議の一部局として工業統制の事に當るのである。最高國民經濟會議は聯邦又は共和國の人民委員部で、強いて譬へて言へば、工務省に相當するものであるが、此がオベヂネニイの理事者を任命し、此の理事者が更にトラストの理事者、トラスト理事會が企業の理事者を任命する。併し最高國民經濟會議は企業又はトラストの理事者任命に對する諾否の權能を持つてゐる。其職務の中には各工業間の聯絡機關たること、企業、トラスト、結合の損益分配の監督、販賣價格殊に一産業の生産物を他の産業に賣る場合の價格の規定等が含まれてゐる。

斯く最高國民經濟會議は工業に對する國家の統制を代表するものであるが、併しオベヂネニイ以下の組織にも多くの自由が認められてゐる。例へばオベヂネニイは生産物販賣、原料購入の契約を結ぶ上に多くの自由を持つて居り、更に又トラストは結合に諮らずに少額又は雜品の購入をなすことを認められ居る。又企業も勞働者の傭免はトラストと相談なしにすることが出來る。

假に一貨物の生産せらるゝ場合を考ふるに、勞働者は右に言ふ如く企業が雇入れる。加工すべき原料はオベヂネ

ニイが購入して、之を所屬のトラスト又は企業に配分する。其原料は何處から得て來るかといふと、之を生産する工業のオベヂネニイから購入する。其場合の價格は最高國民經濟會議及び商業委員部に依て定められた限度内に於て、兩オベヂネニイの契約に由て定められる。次に生産せられた貨物の賣却は矢張りオベヂネニイが之に當る。生産物が他の工業の原料として使用せらるゝものならば、其賣却は上述の如く行はれるし、生産物が消費財なる場合には消費組合と契約を結ぶのである。此等の場合の資金融通は如何にするかといふに、元來生産資金の泉源は（一）工場、トラスト其者の資産、（二）銀行信用、（三）國家財政の補助の三であるが、この何れの場合に於ても、トラスト、企業への資金の分配はオベヂネニイが之に當る。

上記の生産は皆なゴスプランに依て立案せられ、政府に由て承認せられた計畫に從つて行はれる。併しオベヂネニイ等は、單に天降りの計劃案を受取つて、たゞ其儘之を遂行するといふ譯ではない。計劃其者の資料は、最初企業から、トラストから、オベヂネニイに送附せられ、オベヂネニイは之に基づいて該工業に適用せらるべき計畫を定め、之が最高國民經濟會議、それから更にゴスプランに廻附せられ、ゴスプランが之を吟味し、全聯邦經濟計畫に適合するやうに變更を加へて後、今度は逆に最高國民經濟會議を經て再び元に歸る。ゴスプランから逐次下に降つて來る計畫案をプロムフインプランと稱してゐるが、プロムフインプランはたゞ大體の事を定め、實行上の細目案をオベヂネニイが作成する。トラストは企業とオベヂネニイとの中間機關として働くのである。

斯くして生産して收得された國營トラストの利益は如何に處分されるか。極く近年まで此利益は左の如く分配された。

所得税として國庫納附	一〇％
勞働者狀態改善基金	一〇％
トラストの豫備資本	一〇％
特別國家資金として工業・電化長期信用銀行（プロムバンク）へ預入	一〇％
企業擴張資本（半額はプロムバンクへ預入）	二五％
作業奬勵基金	一／四％
特別資本として國庫納入	四四・七五％

其後一九二九年十二月に至つて此分配の割合が少しく變更せられて國家納入分が少しく增加した。何れにしても生産物の價格は自由競爭に依て定まらずして、國家が之を制規するのであるから、利潤の高下は企業やトラストの成績を判斷する標準にはならぬ。ソヰエト國家が必要と認める場合には、價格を生産費以下に定める場合もあるし、又トラストが國庫に納入するよりも更に多額の補助金を國庫に仰ぐといふ如き場合もある。トラストの成績は寧ろプロムフインプランの指定よりも生産費が安いか否か、生産額が多いか、品質が勝れてゐるか否かに由て判斷されるのである。（ソヰエト工業の組織に就いては Hoover, Ch. II に據る）

九

さて元に歸つて、五個年計劃は前記の通り、自一九二八―二九至一九三二―三三年の五個年間に實施せらるゝも

のとして一九二九年三月聯邦ソヰト大會で可決確定された。是より先き一九二五年に始めて一九二五—二六年度の統制數字なるものがゴスプランで作成されて、百頁許りの冊子として發表された。それは次年度に於ける生産額、放資額、物價、生産費、勞働の生産力等に就いての見込み及び計畫の數字であつて、謂はば五個年でなく一個年計畫とも稱すべきものである。五個年計畫が最初に立てられたのは一九二七年の事であつたが、此案は實行に至らず、其代りに一層大規模で、且つ大膽な現行計畫が立てられたのである。

五個年計畫の主眼が重工業の發達に重點を置く意味での露西亞の「工業化」にあることは既に述べた通りである。此計畫に於てソヰエト露西亞は既存の工業を增大發展せしむるのみならず、全く新なる工業、全く新なる都市、全く新なる交通聯絡を造り出さうとして居る。一二の例を擧げれば、四十二個所の强大なる發電所を設立する。就中、ドニエプル河を利用したドニエプルストロイは最も有名である。スタリングラアドに設計さるゝトラクタア製造所は一年に五萬臺を製造する筈である。同樣の工場はまだシエリヤビンスク及びカルコフにも設立される。歐州最大の農業機械工場が建てられる。ニジニノヴゴロドに設計さるゝ工場は年に十四萬臺の自轉車及びトラックを製造する豫定である。其から從來の工業中心地から離れた地點に全く新しい工業中心地を造る。殊にウラル地方を重工業の中心地たらしめる豫定で、南ウラルのマグニトゴルスクには四百萬噸の鐵を產する歐州最大の製鐵所を起し、此處で要せらるゝ石炭は二千四百粁を離れた西部西比利亞のクズネツクから日々十回の列車（一列車一萬噸）で之を運搬するといふ。更に化學工業を發達せしめて肥料を此に仰ぎ、又爆發藥等の武器を造らしめる。工業生産額の增加率が五個年間に二三六％と計畫されてゐることは既に記したが、最終の年、即ち一九三二—三三年には生産額の三五％を新設工業から取る豫定であるといふ。以て此計劃全體の壯大なることの一斑を察することが出來るだらう。

トルキスタンと西比利亞とを繫ぎ、綿花栽培地に直ちに西比利亞の穀物を供給せんとするトルクシブ鐵道の事は既に知られてゐる。猶ほ幾多の線路が、或はブルガの奥の穀作地と黑海港との連繫を密接にし、或は歐露東北部の森林を開發する爲めに敷設される筈である。

農業に就いては、其生産額の一九二七—二八年に百六十億留なるものを、一九三二—三三年には二百五十八億留に增す豫定であつて、作付段別は全體を通じて二二％、穀作地は一五—七％を、其他の收穫物は五一乃至六一％を加へる。併し變化するのは、獨り生産額のみではない。一九二七—二八年には耕作地全部の九八％は個人農民に依て耕され、國營農場に屬するものは僅に一・一％、集團農場に屬するものは〇・九％に過ぎなかつたが、一九三二—三三年には集團農場の面積は一四・三％、國營農場の其は三・五％に上らしめる計畫である。然るに此等の大農場は生産力が高く、從つて多く餘剩穀物を產出するから、市場農產物の二五％、又市場穀物の四三％は此等の社會主義部門から生産される豫定であつた。

固より上述の如き莫大なる生産增加を實現するには、無論非常な勢で資本放下額を增さなければならぬ。即ち既存の資本七百二億を千二百七十八億に上さうとするのである。此の資本增加は無論國民所得の貯蓄に依て得なければならぬが、其中任意貯蓄に仰がるゝものは其一部分（約四分一）の主として農業に投入せらるゝものに過ぎず、他の部

分は國民の意志如何に拘らず行はれる。其方法は獨占國營トラストの收益の形で取つても好し、或は租稅として取つても好い。國家はその適當と認めるやうに價格を定める權能を持ち、工業に就いては國內に於て事實上獨占の地位に居り、又外國の競爭に對しては貿易國營に依て保護されてゐるのであるから、何れの方法に依て放資を行つても事實上は擇ぶ所がない。更に此等の方法で足りない部分に就いては募債する。其應募は形式上は自由だが事實上は強制的である。（B. Brutzkus, Der Fünfjahresplan und seine Erfüllung. 1932. S. 17-8）

斯くして放下せらるゝ資本は露西亞產業の私營部門に對して社會主義部門の勢力を增大せしむる。其豫定の割合は左の通りである（Grinko p. 61）。

	一九二七—二八年	一九三二—三三年
元本資金總額	一〇〇	一〇〇
國營企業	五一・	六三・六
協同組合企業	一・七	五・三
私企業	四七・三	三一・一

以上の如き急速なる資本放下を行ふには、當然消費の抑制をしなければならぬ。即ち國民の少くも現在に於ける生活狀態は低下しなければならぬ筈である。然るに、五個年計畫では、放資を行ふと共に國民の生活水準が高められる筈だといふ。其は放資が急速に增大すると共に生產力が增進するからである。勞働者の所得は五年間に四七%增し、物價の下落と相俟つて實質所得は七一%增加するといふ。生產費の低減に就いていへば、農業生產では五年內に播種面積を二一・六%增し、一單位面積の收穫を、穀物は二五%、棉花は三四%、亞麻は五六%を增す積りであるといひ、工業では生產費を三五%引下げるといふ（Brutzkus, S. 20）。

十

ソヰエト五個年計畫とは大要上述の如きものである。然らば其實行の成績は何うであつたか。

其よりも先づ斯る急激の「工業化」は果して理論的に可能であるか否かを考へて見るに、是は無論可能である。計畫に豫定せられたやうな急速なる生產增加は、平常の資本主義社會に於ては殆ど其例を見ない。歐州大戰當時の合衆國、日本の如き場合、或は戰勝に依て莫大な償金を贏ち得たるか、或は突然或地方に一大金鑛が發見せられたとでもいふ場合に之に類する現象を見るかも知れない。而かも其にしても、國民が進んで前に述べたる如く其所得の四〇%を任意に貯蓄するといふ如きは殆ど期待出得ないと言ふべきである。

斯る稀有の場合を除けば、五個年計畫遂行に類することは唯大戰爭の場合に見ることが出來る。戰爭は無論生產計畫の遂行ではない。併し交戰國民が其の享樂的消費を極度に節減し、又其の勞働能力を極度に行使する點に於ては、現在露西亞に行はれてゐる努力と變る所はない。無論戰爭の場合には、國民中の或大なる部分は全く生產的勞働から離れて戰鬪に從事し、別の大なる部分は軍需品の製造に從事する。戰鬪從事者の勞働は勿論、軍需品の製造も決して固定資本の製造と同じではない。併し戰鬪も軍需品の製造も、固定資本の生產も、その差し當りの處享樂的消費の用に供し得ない目的物の爲め現在の生產力を割き、從つて其爲めに其丈け享樂財生產が削減されなければなら

ぬことに變りはない。例へばマグニトゴルスクの大製鐵所で造つた鐵は、其で軍艦大砲も造れゝば、紡績織物機械や遊乘用自動車も造れる。併し國民の享樂上の幸不幸が岐れるのは、製造された其の鐵が何れの用途に差し向けられるかに付て始めて定まるのであつて、製鐵所の建設其事に由て直ちに定まるものではない。故に衣服なり食物なりの消費財が生産せられて提供せらるゝ其時迄は、軍需品の製造に生産力を割いても、固定資本の生産に其を割いても消費者の側から見ては異なる所はない。而して世界戰爭の經驗に徴すれば、戰時に於ける各國民の忍苦と耐久の能力は遙に平時の意想外であつた。それは無論戰時軍政府の强制威壓も働いてゐるが、其と同時に「國難」の意識が此强制威壓を特に太しい壓制と感じさせないのである。

ソヰエト五個年計畫の場合も同樣であつて、此計畫遂行にゲエ・ペエ・ウウ（政治警察）は固より最も重要なる役目を働くに相違ないが、ソヰエト政府が若し充分その教育機關と宣傳機關とに依て、國民に、五個年計畫に對して、戰時に於ける愛國心に類する感奮を起こさしむることに成功するならば、計畫遂行の爲めに國民に戰時の其に等しい困苦を忍ばしめることも決して不可能ではない筈である。又實際の事實も多くの點で之を證明してゐる。

十一

五個年計畫遂行の實績如何といへば、今日迄の處生産數量の一點に於ては確かに成功してゐると言ひたい。石炭鐵鋼鐵の如き重要品に就いて若干の例外はあり、又其將來に就いて疑惧すべき點はあるにもせよ、大多數の生産部門に於いて、生産力の增進は當初の計畫どころでなく、其よりも確に速かに實現された。計畫實施後の生産額の增加が豫定の計畫を超過したので、勞農當局者は當初の計劃を改めて「五個年計畫を四個年に」完成することにした。最初の二個年の實績を見ると、工業全體の生産に於て一九二八—二九年一九二九—三〇年度の計劃が夫々前年に比して二一・四％及び二一・五％の增加を見込んであるのに對し、實際の成績は夫々二三・七％及二三％の增加を示して居る。更に其内譯たる重工業及び輕工業の增加比例を示せば左の如くである。

年度	工業全體 計畫	工業全體 實行	重工業 計畫	重工業 實行	輕工業 計畫	輕工業 實行
一九二八—二九年	二一・四％	二三・七％	二五％	二七・九％	一九％	一八・七％
一九二九—三〇年	二一・五％	二三％	二六％	三八・四％	一八％	一二・一％ (Brutzkus, S. 30)。

即ち是に由て見ると、輕工業の發達速度は計畫其者に於て既に重工業に遜るものと立案せられてゐるが、實行の結果も比較的不成績で豫定の數字に達してゐない。其代り特に重要視せらるゝ重工業の方は殊に第二年目には豫定數字を著しく超過し、全體に於て前記通りの成績を擧げてゐる。ブルツクスは其後に於て生産增進の速度が落ちたことを指摘してゐるが（S. 31）併し全體として數量的には好成績を擧げたと言はなければなるまい。チヤムバアリンの如きは、勞農露西亞に特にに有利な論斷を下すとも思はれないが、施行第二年に於て既に「五個年計畫に定められた目的は、工業産額に就いては、大概の場合四年内に、又或場合に於ては更に短い期間内に實現されるであらう」と期待した（p. 38）。昨年末モロトフ、クイビシユフ等、ソヰエト聯邦の當路者が報告する所に由れば「五年計畫を四個年に」の方針は優に實現され得るものゝやうである。例へば計畫最終（第五年次）年の工業生産豫定額は三

百四億五千五百萬留であるが、最近の調査に由れば、一九三一年の工業生産額が既に二百七十億四千萬留に上り、一九三二年の豫想は三百七十億五千萬留に達するといふ。これは明に五個年計畫を四個年に完成して猶ほ餘りあることを示すものである。資本放資も四年間に優に五個年計畫を超過するのみならず、その約二倍に達するといふ（ソウエート聯邦事情第三卷第二號一一―二頁）。勿論勞農當局者の報告を一々其儘に受取ることは愚直の至りであらうけれども、大體に於て五個年計畫が工業産額の上で標語の如く四年内に完成せらるべきことは爭ひ難い所であると思ふ。

更に農業方面に於ては、計畫にある播種面積の増加は著しく、一九二九年には一一六、六二〇千ヘクタアル、三〇年には一二四、八〇〇千ヘクタアル、三一年には一二六、二〇〇千ヘクタアルに達し、トラクタア耕作も一九三〇年の五十一萬ヘクタアルが一九三一年には二百二萬ヘクタアルに上つたといふ（Brutzkus, p. 55）。併し其より更に著しい成功は農業經營集團化の進行が豫定よりも遙に速かなことである。計畫によれば、五年内に全農民の二〇％を集團化する豫定であつた。然るに集團經營の參加者は、一九三〇年の三月一日既に一度農家總數の五五％を算するに至つた。其後政府政策の緩和に依つて一旦急に二五％といふ處まで退却したが、其後更に其勢を盛り返して一九三一年十二月には六二・四％に達し一九三二年中には七二乃至七五％に達せしむべき豫定であるといふ。無論集團經營の數が一時急激に増加したのは、無論農民がコルホオズの價値を了解した爲めではなく、主としては政府の高壓手段に依つたものであつて、一九二九―三〇年農民が政府に反抗して頗る不穩の狀を呈したといふことも事實であり、又其故にこそ政府は一時政策を轉換した次第であるが、一時退却した政府は間もなく再び强壓政策に訴へ始めた。聯邦人民委員會長モロトフは一九三一年三月の聯邦ソヰエト大會で「コルホオズに反對し、コルホオズの支持に反對することは、ソヰエト權力に反對してクラアクを支持することを意味する。……本年に於ては、コルホオズに對する態度の問題は凡ての中農及び貧農の前に剝き出しに提出されて居る。殘る所はたゞ撰擇あるのみ」と言明した（Zitiert bei Brutzkus, S. 52）。さうして再び盛んに農民の追放が行はれた。併し强壓によること否とを問はず、兎に角集團經營化が當初の豫定よりも遙に速かな勢で進行したことは、動し難い事實である。

十二

數字に示し得る限りに於て五個年計劃が過去三年間に多くの好成績を示してゐることは上述の通りである。但し長年月に亘る永久的の秩序として勞農制度が果して如何なる結果を示すであらうかは、極めて困難な問題である。一時緊急の方策としては統制經濟が營利經濟に比して後者の到底企て得ざることを成し遂げたことは、既に世界大戰當時の各國の經驗が之を證明してゐる。戰時危急の場合に於て、全國民一切の生産力を擧げて絶對的生活必需品と軍需品との生産に集中し、これが爲めに一切の贅澤品快樂品或は少なくも差し當り戰爭の遂行に必要ならざるものゝ生産を癈止制限しなければならぬ。此が急速に行はれるか否かは國の存亡の岐れる所である。斯る切迫した場合に於て、各人は其所得を以てその好む所の物を購入し、その好む所に從つて貯蓄をなし、他面市場價格と生産費上との關係上已れに取つて最も有利と認めるものゝ生産を企て、或は已れに取つて最も適すると認める職業に就いて働

らくといふ、自由なる營利經濟の原則などを忠實に遵守して居られないことは言ふ迄もない事である。各人の好むと好まざるとに論なく、國家は自らその必要と認める所に生産力を集中して之を極度に行使し、之を妨害する者は、必要とあれば峻嚴なる制裁を以て處置しなければならぬ。

此意味に於ての統制經濟の效果と必要とは(統制を必要とするの程度に就いては異論も起り得るが)何人も否認し得ざる所である。今勞農五個年計劃は、無論戰爭の爲めに行はれたものではないが、共産黨の内外に對する關係上、緊急已むを得ざる必要に促された點に於て、彼の前年各國の戰時統制經濟に類する一面を持つてゐるのである。此の所謂緊急の必要は、露西亞國民大衆に取つての緊急事ではない。國民大衆は無論其食糧が個人的農民に依て生産されるか、或は集團農場に依て生産さるるかは問ふ所でない。又若しも低廉にして優良なる工業品が外國から輸入されるならば、無論其方を歡迎するであらう。況や國民の大多數を占める農民に至つては、土地と家畜と農具を携へてのコルホオズ參加を强制せられ、コルホオズ内に於ては他處から來た共産主義者の支配を受け、而して耕作せられた農産物の極めて多くの部分が都市住民又は外國輸出の爲めに持ち去られるといふことは迷惑至極の事に相違ない。故に五個年計劃に依て個々の點で如何なる利益を受けたとしても、多數民衆に取つて其實行は緊急の必要事ではない。たゞ共産黨政府に取つては局面の展開は絶對的に猶豫し難き必要であつた。共産黨は國内に於ては少數者の支持に立つてゐる。國民の大多數を成す農民は個人主義者であつて、たゞ共産黨政府に依て何か具體的な個々の利益を與へられたその個々の場合に政府の支持者となる丈けで、原則としては賴むに足らざる味方ならばまだ好いが、何時敵對者とならぬとも限らない。而かもレニンの遺策たるスミチュカ(農民との妥協)を續行すれば、農村ブルジョワたるクラクは必ず擡頭する。是は共産黨政府の放置し難い所である。何うしても農民を速にプロレタリヤ同樣の被傭者たる位置に下さなければならぬ。外國工業に信賴する危險も同樣である。唯、消費者としての國民には、外國工業品の輸入は少しも差支ないことであるが、共産黨政府を維持する立場から言へば、先進資本主義國への從屬は最も危險な事である。況や資本主義國との開戰はよし必然不可避でない迄も何時でも其用意丈はして置かなければならぬ。それには自國で工業殊に重工業を持たなければならぬ。それを五個年といふ短かい期間に成し遂げるといふことは、權力によらず、營利經濟の自然の機構に依つてしては確かに不可能である。

これが五個年計劃の必要は戰時統制經濟の必要に類すると謂ふ所以である。たゞ上述の如き統制經濟が、果して永續的に効果を收め得るや否やは自ら別問題である。

十三

姑らく統制經濟の長所は論なきものとする。短所は如何。營利經濟に比較しての統制經濟の弱點とされるのは、市場價格といふバロメエトルと營利心の刺戟とを取り去つた社會で如何にして需要に適合した生産を、而かも比較的最も低廉に行ふことが出來るかといふ點である。

營利經濟組織に於ては、生産當事者は生産物の市場價格と生産費（生産費といふも、同じく諸生産要素の價格である）とを比較して、生産費に比較して市場價格の最も高い商品を擇んで生産する。生産費に比較して價格が高い

商品といふのは、當然或程度に於て需要に適合せる商品である。生産の利益は價格と費用の差額に成り立つのであるから、生産當事者は自己の利益の爲めに絶えず生産費の節約を促される。或程度以上に此節約を怠るものは何等の制裁を加へずとも當然の沒落に依て所罰される。

然るに今日のソヰエト聯邦に於ては、此作用は最早や行はれない。生産物の價格は最早需給の關係では定められず國家の機關（最高國民經濟會議）の適當と認める所に從つて定められる。從つて需要に比して缺乏せるもの必しも高からず、其反對なるもの必しも低廉でない。今日現行の價格が如何に需給の關係と離れてゐるかは、之を私かに行はれてゐる商人の賣買價格と比較して見れば分かる。私賣買の價格は往々公認價格の幾倍に上るといふ事である。

既に市場價格が需給の關係を示さぬと同時に、生産當事者も亦た利潤を目的として生産を企てるのではない。前に記した所に由れば、企業又はトラストの生産利益の極めて些少なる部分が一種のボオナスとして生産當局者に與へられてゐる樣子である。此外に好成績を擧げた生産者の名譽を表彰して其勤勞を刺戟する樣々の方法が講ぜられてゐる。又生産上に成績を擧げれば、共産黨役員又は政府の官吏として登用される幸福が持ち受けてゐるといふ。併し乍ら、抑も如何なる生産物を如何なる數量に於て生産すべきかといふことは、私人の決すべき問題でなくて、ゴスプランを中心とする無數の種類段階の公共機關に依て決せられる。下級の機關から提出せられた材料が漸次上級の機關に廻附せられ、其間に吟味せられ、訂正せられ、決定せられて結局又下級の機關に廻布される、其間に經過する時間丈けでも輕視できない。「其結果として結局作成せられた案が、形式的に採用される以前に時代遲れとなることは屢々ある」（Hoover, p. 301）。況や官僚的繁文褥禮と、共産黨の監視に脅へる專門家の責任廻避があるから、決定せられた生産計劃が需要の實際に適合しないといふことは當然起り得るであらう。生産に於て然り、生産物の配給に於ては愈々その甚しきを見るであらう。五個年計畫の缺點として世間に傳へらるゝ、生産物品質及び生産比例性の問題は何れも此點に原因するのである。

五個年計畫の實施に於て生産の數量は增加しても、其生産物の品質が甚しく粗惡であるといふことは、既に定論の存する所であつて、（チエムバリン曰く「品質の低級は常にソヰエト工業生産のアキレス腱であつた」）又勞農當局者も決して之を否認することが出來ない。其の若干の實例を引かう。

一九三〇年一月八日の最高國民經濟會議の機關紙（ザ・インドストリアリザチウ）は記して曰ふ、「一九二九年十月八日、最高國民經濟會議々長は、幾多の生産部門に於て吾がトラスト及び諸經營の工業製品品質が不面目ながら非常に甚しく低下せることを確定すべく餘義なくせられた。石炭及び鐵の品質粗惡は鐵生産が生産プログラムに及ばざる主要原因の一を成してゐる。鐵の品質の極めて粗惡なることは、加工工業に其生産プログラムの遂行を不可能ならしめた。農業機械製造の面白からざる狀態も亦た此事と關係がある。而して此事は、農民が春の耕作をなす場合に道具も機械もないといふ危險を其中に含むのである。完成品の品質の粗惡は商品饑餓を激成し、勞働者の實質賃銀を低下せしめる。此事實は全國民の目前にソヰエト工業の信用を失はしめる。」（Chamberlin pp. 46-7. Brutzkus,

S.32)

又一九三〇年十月に開かれた消費物の品質に關する聯邦會議の席上國民經濟會議々長クイビシフは次の如く述べた。

「大衆需要の爲めに生産する工業は、昨年其商品の品質を低下せしめた。木棉工業に就いては狀態は非常に惡い。傷物の百分率は四半季から四半季へと増大してゐる。羊毛、トリコタアジュ其他の工業も同樣である。全國の傷物による損失は未だ誰も計算してゐないが、其が何億、或は場合に由ては何十億にもなることは疑ふべくもない。」他の演説者も販賣商品の半分は傷物であると保證した。而かもそれが普通の價格で購買されたのである。木棉業に於て幾多の工場は實に六五―七〇％の傷物を産出するといふことである。(Brutzkus, S. 33)。

此狀態は一九三一年に入つても改まらない。「エコノミチエスカヤシズニ」といふ新聞が特に招集した討議會に就いて報告する所によれば(一九三一年十一月十九日)、生産物品質の問題は第十六回共産黨大會で喧しく論じられたが、「爾來一年半の間に眞實生産の品質を高める爲めには殆ど何も爲されてゐない。前年生産された二十億米突の品物の中二一％は傷物である。四億米以上は廢物にされた。他の驚くべき一例は、石炭に含灰量の多いことである。炭層内で八・四九％の灰を含有する場合に採掘された石炭は一六・五％の其を含有した。電球の標準によれば八百時間の使用に堪へるものが僅に六百時間燃え、而かも異常に多くの電力を要した」(S. 34)。石炭含灰量の多いことはクイビシフが一九三〇年六七月の共産黨大會でも述べ、若し此點に改良が加へられないと、一九三一年にはたゞ此の有害無用物を運搬する丈けに六千列車を要するだらうと言つて居る(Chamberlin, p. 48)。

まだ此外にも類例を増すことが出來る。一足にして二十二個所の缺點を持つといふ長靴の話、一方の脚が他方より短いズボンの話ビジョウがない爲め、手で支へてゐなければならぬズボンの話等々數へ立てれば際限はないであらう。

たゞ茲に注意すべきは、斯く品質の低下は實質上に於て數量の低下に等しいといふ事である。若し或る生産物の品質が低下して從來程長く使用に堪へなくなつたとすれば、其は結局數量の不足となるであらう。例へばカガノフに依てゴム靴の耐久力が減退した例が擧げられてゐる、一九一三年にはロシヤで二千八百萬足が製造された。それが一九二八―二九年には聯邦内で四千一百五十萬足出來た。即ち四八％の増加である。然るに戰前のゴム靴は極めて良質の評判を有し、八九個月の使用に堪へたものであるが、革命後の製品は四五個月しか持たぬといふ。然りとすれば、事實に於て靴の生産高は四八％の増加でなくて、却て二六％の減少となると謂はなければならぬ (Zitiert bei Brutzkus S. 35)。前の交通人民委員ルヅタアクの演説中にも、最高國民經濟會議が戰前には四十五年間の使用に堪へるものとされた鐵道レエルに對して五個年の保障を與へることを拒絶した例が引かれてゐる (Chamberlin, p. 48)。

斯る生産物の品質低下は、消費財にあつては消費者に不滿足を與へる丈けであるが、生産財の場合には其結果は累積して當然將來の生産の數量及び品質を低下せしめる筈である。

然らば何故に斯る生産物品質の低下が起つたのであらうか。其原因の第一は、生産の速行に在る。勞農當局者がたゞ只管に生産增進の急速なるを求める結果、技能熟練の低級な勞働者が不充分又は不適當な原料に大急ぎで加工する結果が上述の如き事實となつて現れたのである。五個年計劃の四年遂行の爲め、各トラスト又は企業の當事者は是非とも指定の生産額を擧げなければならぬとされてゐる。而して指定額を超過すること多ければ多い程好成績として表彰されるのである。其處で勢ひたゞ數量の增加といふ一事に力を集中することになる。勿論其場合に於て品質の良好といふ事も注意しなければならぬことにはなつて居るが、併し品質の高下は數量に現はし難く、從つて之に適當の監督を加へることが困難である。

併しこれは一産業が國家の獨占に歸して外部の競爭が遮斷されてゐるから斯う言ふ事になるので、若しも自由競爭に依る市場價格の決定を許せば、生産物の品質は、官憲が監督しないでも、其物の購買者自身が監督する。自由競爭の行はるゝ市場に於ては、購買者は品質優良なるものと粗惡なるものとを同じ價格では買はない。或は餘りに粗惡なるものは全く賣れないであらう。故に官憲が干涉せずとも粗惡品の生産者は彼自身の無能力の爲めに沒落するか、或は生存を續ける爲めに品質の改良を餘儀なくされるであらう。勿論購買者自身の生産に對する監督が有ゆる點から見て常に最も望ましいとは謂へぬかも知れない。併し購買者自身は他の何人よりも最もよく己れ自身の欲するものを知つて居るといふ事實は動かすことが出來ない。官憲の智能權力に假りに充分の信賴を置くとしても、一物に對する需要を其需要者自身よりも良く知るといふ事は期待されない。生産の品質を購買者自身でない第三者に監督せしむるとすれば、常に此遺憾はあるものと覺悟しなければならぬ。若し此遺憾なきを期せんとすれば、恐らく甚しい干涉監察を必要とするであらう。

生産物品質の低下は偶然に起つたものではない。ソヰユト露西亞で確に生産は盛んに行はれてゐる。併し其生産は或部分需要と無關係に行はれてゐる、完全に需要を滿たすに足らざるものが生産されてゐるのである。

品質の低下と共に擧ぐべきは、社會主義工業が其生産物の種類を甚しく局限して、或種のものが全然供給されなくなつたと報ぜられてゐることである。是も市場價格をバロメエトルとする生産を廢すれば當然起る事柄である。最近露西亞で生産の廢せられた品物は、大量生産が比較的困難であるか、或は現在の標準から見て多少贅澤品に類する諸物だといふのであらう。「エコノミチエスカヤ・シズニ」（一九三一年十一月二十一日）に由ると、エボナイトの櫛、服のボタン、書狀挾み、剃刀、カフス・ボタン、洋服掛け、服の裏地、服の塡め物、テユプ、シフオン、寢床のシイツ、スリツパ、ゴム底靴等が是である（Brutzkus, S. 35）。

贅澤品又は有害品の生産を抑制することは無論差支ないことがあるが、上記の諸物品の如きは贅澤品と見られない。又現在の露西亞に、生産財の增加を圖る旁ら此等の物に割く丈けの生産力もないとも思はれない。畢竟生産方向を定める上に消費者の需要が顧慮される自動的機構が缺けてゐる爲めだと見るより外はないと思ふ。

十五

生産物品質の問題と相並んで屢々批評を受けるのは、生産の增加はあつても、其增加が比例的に行はれてゐない

といふことである。

抑も一般經濟財は皆な單獨に需要されるものではなくて、或る需要體系の構成部分として需要されるのである。卑近の例を取れば、靴がなければ靴下は殆ど無用物である。ペンがなければインクは役に立たず、その何れかゞ缺ければ書簡箋や原稿用紙は用をなさぬ。此種の類例は擧げて數ふるに遑がない。此等の諸物は皆な互に術語に所謂補充財の關係に立つてゐる。然るに、生産物一般は、上記の引例ほどに密接ではないが、併し皆な何等かの關係に於て互に補充し合つてゐて、全然他の物と無關係に需要されるものは殆ど無いと謂つても好い。殊に或種生産財にあつては其相互關係は殊に密接であつて、其或物を欠けば、他の物は全然役に立たぬといふ場合がある。例へば石炭、機械油、各種原料の如きにあつては、その何れを缺いても、殘る生産設備の一切部分が全く役に立たないといふ場合が起る。此る場合には、生産物の一々は有用なものであつても、相互間の數量的比例が其當を得ない爲め、生産力が徒勞されたことになる。

然らば生産物相互の比例を保つには如何にすべきかといふに、營利經濟の下では問題は簡單であつて、比較的缺乏したものゝ價格が騰貴し、比較的過剰を告げたものゝ價格が下落して、謂はゞ自動的に生産力が過剰なるものから不足せるものゝ生産に向けられる。それが生産財の場合には比較的缺乏せるものは騰貴するから、自然に之を用ゐて生産されるものゝ生産が抑制せられ、反對に相對的過剰で價格の下落したものの利用は奬勵される。斯くして其國民經濟の生産力が最も經濟的に利用されるといふ譯である。勿論事實上に於て種々の原因の妨害の爲め斯く理想的には行はれないが、兎に角其原則は此の通りで分つてゐる。

今ソヰエト露西亞では何うするかと言ふに、無論ゴスプラン其他の計劃機關が之を決定する。然るに此決定が假りに敏速正確に行はれ得たとしても、此場合の不利益は計劃者が同時に生産當事者でないといふ事である。營利經濟の下に於ては、生産當事者が同時に生産計劃の責任者である。若しも生産計劃が正しく需要に適合しない場合には、此の不適合の過失は直ちに生産物價格の下落又は販賣不能に依て罰せられ、當事者は直ちに其過誤を改めなければならぬ。然るに生産當事者が計劃に就いての責任者でないとすると、彼れは其生産物の果して購買者の要求に適するや否やを顧慮することなく、たゞ指定せられたものを、指定せられた數量に於て生産すれば好いといふ事になる。而かも前記の通り、生産物の品質に對する監督は頗る不充分で、たゞ生産の數量のみが喧しく言はれ、少しでも多く指定の數量を超過すれば、即ち生産の好成績であるとして賞揚されるとしたならば、生産比例性の維持といふことは非常に煩雜な、遲緩な手續を經て始めて行はれることになる。

五個年計畫の數量的成績は誰れも否認し得ぬ處であるが、此の生産額數量の中には、相互の比例を失した生産增加も含まれてゐる。極端な例を假想していへば、織物業の發達よりも幾倍かの速度を以て綿糸の生産が增加し、織物業の方では其半分を織上げる丈けの設備も出來てないといふ如き場合、此の織り上げられない綿糸は差し當り役に立たず、此部分に投ぜられた勞働は徒費せられた譯であるが、而かも此の利用されない綿糸も亦た生産物の一部分として報告されることを妨げない。通俗の理論に於ては、統制經濟は生産の比例性を保ち、營利經濟は生産の無

政府狀態を現出するといふことになつてゐるが、問題は決して左樣に簡單でない。此點に於て、今日の露西亞で原料と補助材料と完成品と工場設備と交通機關との增加が互に比例を失してゐると報導されるのは、蓋し理由なきことではあるまい。

フオシツシエ新聞の一記者ヰルム・シユタインなる者が此點に關聯して面白い出來事を報道してゐる。其に由ると、モスカウに他の仕事と共に各種のボタンの供給を掌る役所があり、又ボタン製造工場があつた。役所の主任者と工場の支配者とは、生産計畫以上の成績を擧げたものが屢々賞與表彰榮進等に依て酬ひらるゝことを見聞してゐる。其處で、該官吏は需要に幾倍するボタンを工場に註文し、工場は又其全力を最も速かに造れる簡單なボタンの製造に集注して、註文に二三倍する製品を造り上げた。數字に由ると「計畫」では十五萬留のボタンが必要とされたのに、右の官吏は六十萬留を註文し、工場監理者は又更に三百十五萬留の最も下等なボタンを供給したので、モスカウの內外では、一切の優良なボタンは缺乏し、低級不用のボタンのみが橫溢したといふのである。此場合此官吏と工場支配者とは豫期が外れて、賞與どころか却て勞働者物資供給の攪亂者として刑法の罪に問はれたといふ事である。（Brutzkus, S. 36）

是は如何にも有り得べからざる、滑稽な出來事の樣であるが、生産者が需要を顧慮する責任を免かれ、たゞ生産の增加をのみ鞭撻されれば、道理上當然起り得ることである。同樣にして其時の需要に對しては不必要な生産設備を起こすといふことも當然あり得ることゝ想像される。

生産の比例性が論ぜられる場合に常に引かれるのは、鐵、石炭の生産が比較的に不足を告げてゐることである。此兩者の生産は、五個年計劃實施の當初から不如意を告げたが（Hoover, p. 312）、後に至つても著しき改善を見ず、昨年六月の産業者大會に於ける有名なスタリンの演說も特に此二業の不成績に言及したが、一九三一年の銑鐵生産額は八％、鋼鐵は一二％、何れも前年度に比し減少を示し、石炭は計畫産額八千三百六十萬噸なるに實産額は五千七百六十萬噸に過ぎなかつたといふ（「ソウエート聯邦事情」第三卷第二號一二—三頁、Brutzkus, S. 36-7 參照）。此點は五個年計畫遂行上最も困難なる問題の一となるであらう。

而かも生産比例性の問題は、私の見る所では、重工業に重きを置く間は、比較的困難でない。第一次五個年計畫を完了し、次に第二次第三次五個年計畫をも完了すれば、何時か生産財の生産を相當の程度に止めて、既に生産し得たる生産財を以て大に消費財を生産し、國民の日常生活を豐富潤澤にして、以て過去五年間十年間或は十五年間の共勞苦と忍耐に報ひなければならぬ時が來るであらう。其曉に於て國民は果してその欲するものを欲する度合に應じて與へらるゝか否か。例へば上記の如き、ボタンは有り餘る程有るが、必要に應ずる趣味に適つたボタンは與へられないと言ふが如き事は起らぬか否か。生産比例性の問題は其時に於て今よりも遙に重要の問題となるであらう。

生産手段の生産に主力を注いでゐる間は、實は生産比例性の問題は左程困難ではない。何となれば、生産手段、殊に生産手段の原料、補助材料（鐵石炭等々）の如きは其用途が限定されてゐず、殆ど如何なるものゝ生産にも役立ち得ること宛も勞働力に類するものだからである。衣服や靴や帽子や家屋や萬年筆が皆な等しく人間勞働に依つて生

産せらるゝと同様に、鐵や石炭は、船舶にも機械にもトラクタアにも軍艦にも何にでも成る。從つて此等のものに就いてはそがれ特定の需要に適應した特定種類品質數量に於て生産せられたか否かゞ割合に問題にならぬ。よし假りに不適合な生産手段が生産せられても、その不適合なることは、それに依て生産せられた最終の消費財が生産せらるゝ迄は暴露せずに濟むことがある。故に自由なる市場價格のバロメエトルなしに需要の相對的强弱を測定する困難は、今後に於て始めて感ぜられると見るべきである。

十六

勞農當局は昨年に於て少しく「退却」したといふ者がある。それはスタリンが、生産が不經濟に行はれつゝあるを見て、事業單位別採算主義を復活せんとし、單純なる平等主義を排して、有能熟練なる勞働者、技術家を優遇し、又非專任制を廢して勞働者に其勞働に對する責任を負はしめんとしたことを指して謂ふのである。

更に今年に入つては、去る五月の穀物及び家畜の賣買に關する法令で、コルホオズ及び個人農民からの國家の穀物及び家畜買付額を低減（穀物に就いては一九三一年度の十三億六千七百萬プウドを十一億三百萬プウドに減じ、家畜買付は一九三二年度の後の九個月に對して半減）して、剩餘産物の自由販賣を許可したことが世人の注意を惹いてゐる。

以上二例の如きは、スタリンの政策轉換とか、又は退却とか、喧しく言ふ迄の事ではあるまい。縱令また「退却」であつたにしても、其は飽く迄も戰術的退却であつて、無論前進の意圖の放棄を意味するものと即斷すべきでない。たゞ併し近頃の此の二つの實例に由ても、直接の報酬に由らずして人の勞働と節約と注意とを刺戟することが、如何に社會主義經濟に於いても困難であるかは窺はれる。前途の事は妄りに豫言出來ないが、過去に於て勞農當局者を惱ましたものは、商業殊に小賣商業の方面に於ける私的資本の執拗なる擡頭であつた。さうして其は現在に於ても全く制壓せらるゝに至らず、社會主義店舗では定價は低廉であるが品物はないといふ所謂商品饑餓の現象を呈してゐる時に、私人商人は其傍にあつて、價格は幾倍かの高きに上るが、併し兎に角品物を供給することに依て消費者の或程度の利便を達してゐるといふ事實がある。右述した農民の生産物自由販賣は一層私的商人の活動を促すに至りはせぬか。又工業の方面に於ても經營當事者の個人的責任が强調せらるゝに至つた結果、其生産物を國家よりも高く買ふ私人商人に秘かに販賣しようする誘惑は强くなりはせか。蓋し近き將來の問題の一であらう。

社會主義經濟が果して可能であるか否か。市場なき社會經濟に於て生産力の合理的利用の基準が求めらるゝか否か。これは別に經濟計算の理論を準備して論じなければならない問題である。併し全く市場を廢し、貨幣を廢しても、國民各員の勞働の自由と消費の自由とを並びに剝奪して、國家自ら各員に何を生産すべきか、何を消費すべきかを命令し、國民の半數をして生産に從事せしめ、他の半數をして之を監督せしめる迄の決心をすれば、それは無論實行可能である。ソキエト露西亞は無論今其處までは行つてゐない。併しG・P・U・の活動には多少これを聯想せしむるものがある。前述の如く、生産數量を誤つた經營當事者に刑罰を加へるとか、或は銀貨隱匿者を死刑に處するとかいふ事は、稍〻其に近いと謂つて好からう。此點に於て共産黨當局者に有利であるのは、露西亞の人民大衆が多年

の專制政治に慣れて、法治國民の享有する自由を左ほど尊重しないやうに見えること是である。露西亞民衆は一九〇五年に至つて始めて憲法を獲た。而かも斯くして得た「外觀的主憲政治」もその行はるることは僅に十年に滿たず、一九　四年には既に戰爭の非常狀態に入つた。露西亞人は長年月の歷史の間に、兎も角も言論集會結社等の自由を承認せられたことは僅に九年であつた。此事實は彼等の被治者としての無類の忍耐心を養はしめた。唯々今後年月を經て、其生活上の文化的欲望、又其行動の自由に對する欲望が目覺めた曉きに、現在の如き戒嚴令的、强行軍的經濟政策は、果してその共產黨に取つて必要である程人民大衆に取つて必要であるか否かの疑問を起すであらう。

統制經濟と計畫經濟

向井鹿松

目次

一　戰後經濟の第一期—社會化
二　戰後經濟の第二期—合理化
三　戰後經濟の第三期—統制經濟
四　統制經濟とは何か
五　計畫經濟とは何か
六　資本主義の自働的調節作用の停止と經濟機構の變革
七　ミーゼスと統制經濟の否定
八　計畫經濟の可能性

以上

一

鐵道、電信、電話其他の所謂公益事業(public utilities)の所有及び經營を國家其他の社會に移さうとする運動と其の試みは歐洲戰爭前から廣く行はれてゐた。けれども一般產業、特に個々の重要產業を公經營に移すに就いては尙